

「保育内容総論」の指導法についての検討

—大分県の保育者養成校の事例を中心に—

会津大学短期大学部 幼児教育学科
渡辺 一弘

I. 問題の所在

本稿は、短期大学における「保育内容総論」の指導法について、大分県内の保育者養成校の事例を基に、具体的なシラバスや授業内容・方法等を比較検討し、その現状を把握し、それらの特徴や改善点等を考察することを目的とする。

保育者養成校において、「保育内容総論」という科目は、通常、「保育の内容・方法に関する科目」として演習科目に位置づけられる。このことは、保育内容を総合的に学ぶ過程で、保育現場での実践において、どのように活かすかを検討するうえでも当然のことである。なお、この科目自体は、2010（平成22）年3月に発表された「保育士養成課程等の改正について（中間まとめ）」¹⁾（以下、「中間まとめ」と略記）を受けて新設された科目である²⁾。

「中間まとめ」は、2008（平成21）年11月に発足した「保育士養成課程等検討委員会」による計6回にわたる審議の結果をまとめたものであり、保育士養成課程の改正について、保育士養成の現状、保育現場の状況を踏まえて、改正内容として、以下の6点を示している。

①教科目の配列、②教科目の新設、③教科目の名称の変更等、④教科目の移行、⑤単位数の変更、⑥保育実習Ⅰにおける実習受け入れ施設の範囲や要件の見直し

「保育内容総論」の開設については、④教科目の移行において、以下の様に説明してある。

- ・「保育内容」を、「保育内容総論」と「保育内容演習」に分ける。保育内容の全体的な構造や総体を理解した上で、養護と教育にかかわる領域等について学ぶことが必要であるため、総論と内容演習の教科目を設定する。

つまり、「保育内容」を分割し、「総論」と「演習」の違いを明確にし、「総論」を理解した上で、それぞれの領域内容の「演習」、例えば「保育内容 健康」「保育内容 人間関係」等を履修するように指摘した。

この「中間まとめ」では、「教科目の教授内容の改正案」も示されており、「保育内容総論」の具体的な改正案での、目標、内容については、以下の様に示してある。

<目標>

1. 保育所保育指針における「保育の目標」、「子どもの発達」、「保育の内容」を関連付けて保育内容を理解するとともに、保育指針の各章のつながりを読み取り、保育の全体的な構造を理解する。
2. 保育内容の歴史的変遷について学び、保育内容について理解する。
3. 子どもや子ども集団の発達の特性や発達過程を踏まえ、観察や記録の観点を習得し、保育内容と子ども理解とのかかわりについて学ぶ。
4. 子どもの生活全体を通して、養護（生命の保持、情緒の安定）と教育（健康・人間関係・環境・言葉・表現）が一体的に展開することを具体的な保育実践につなげて理解する。
5. 保育の多様な展開について具体的に学ぶ。

<内容>

1. 保育の基本と保育内容
 - (1) 保育所保育指針に基づく保育の基本及び保育内容の理解
 - (2) 保育の全体構造と保育内容
2. 保育内容の歴史的変遷
3. 保育内容と子ども理解
 - (1) 子どもの発達の特性と保育内容
 - (2) 個と集団の発達と保育内容
 - (3) 保育における観察
 - (4) 保育における記録
4. 保育の基本を踏まえた保育内容の展開
 - (1) 養護と教育が一体的に展開する保育
 - (2) 環境を通して行う保育
 - (3) 遊びによる総合的な保育
 - (4) 生活や発達の連続性に考慮した保育
 - (5) 家庭、地域、小学校との連携を踏まえた保育
5. 保育の多様な展開
 - (1) 乳児保育
 - (2) 長時間の保育
 - (3) 特別な支援を必要とする子どもの保育
 - (4) 多文化共生の保育

このような保育士養成課程の改正の状況を踏まえて、「保育内容総論」の授業や指導法に関する研究も、いくつか見られるようになってきた。例えば、源ら（2014）は、保育者養成校の短期大学、大学を対象に、「保育内容の5領域各論」と「保育内容総論」担当教員が、研究者としてどのような専門分野をもっているのか、その実態を調査した。その結果、「保育内容総論」の担当教員は、「保育内容の5領域各論」担当の教員とは異なり、保

育学・幼児教育学に関連する分野の研究者が過半数を占め、保育現場を経験した教員も「保育内容の5領域各論」担当の教員よりも多いことを明らかにした。またこの傾向が、今後、この科目の授業内容や方法に影響を与えることを示唆した。清水（2015）は、「保育内容総論」の担当者として、自分のこれまでのイメージしながら理解につなげていくことを目指した遊びに関する授業実践の一部を示し、今後の授業の再構築のために検討した結果、「実際に遊ぶ→振り返る→考察する」という授業展開は、総合的に学ぶことに効果的である、と指摘している。川俣ら（2015）は、近隣の2年制課程の保育者養成校7校の「保育内容総論」科目担当者を対象に、「保育内容総論」についてのインタビュー調査を行い、この科目の運営上の解決策を検討した。その結果、他の養成校でも「保育内容総論」の授業運営に苦慮していること、開講時期を変更することで一定の成果が期待できる課題があること、カリキュラム全体における各科目の位置づけと、相関性の明確化の必要性があること等が指摘された。また、徳本（2015）は、「保育内容総論」の授業のあり方として、その内容と方法の観点から、「保育内容総論」は、これからの社会を生きる子どもたちが大人と共同しつつ自身で解決するための力量とそのための視点をどのように体験的に実感的に学ぶか、を実感させる授業として位置づけられ、問題解決に迫る学びの力を身につけるための授業でもある、と指摘した。

しかし、これらの先行研究は、実際の保育者養成校である短期大学における「保育内容総論」の授業や指導法等に関する検討としては、まだ不十分であると思われる。また、具体的な「保育内容総論」の授業のシラバスに対する言及も少ない。

そこで本稿では、保育士養成課程の改正後の、短期大学における「保育内容総論」の指導法について、大分県内の保育者養成校3校の事例を基に、最新の具体的なシラバスや授業内容・方法等を比較検討し、その現状を把握し、それらの特徴や改善点等を考察することを目的とする。なお、大分県内を事例として選んだ理由は、筆者の前任校が大分県内の養成校で、筆者自身が「保育内容総論」を担当していたこと、大分県内の他の養成校の状況についても、ある程度の状況を把握しており、比較検討が容易であろうと考えたからである。

Ⅱ. A私立短期大学幼児教育学科の概要と平成27年度「保育内容総論」の取り組みについて

1. A私立短期大学幼児教育学科の概要

A私立短期大学幼児教育学科（以下、A短大と略記）は、大分県北部の都市に、仏教系私立短期大学として、昭和43年に設立された。入学定員は現在50人である。取得可能な資格は、保育士資格と幼稚園教諭二種免許が中心で、ほとんどの学生がこの2つの資格・免許を取って卒業する。これら以外に、健康児童ソーシャルワーカー（協会認定資格受験資格）、おもちゃインストラクター（講座を受講して取得）も取得可能で、卒業生の就職先は、例年、保育所が約80%、幼稚園と施設がそれぞれ約10%である。

A短大の建学の精神は、大乘仏教の精神、特に親鸞聖人が顕かにされた「浄土真宗の精神」を基本としている。そのため、単に知識教育にとどまることなく、宗教的情操教育に

根ざした豊かな人格形成に主眼を置く、少人数制のきめ細かい指導で、「人間教育」・「心の教育」を実践してきている。

2. A 私立短期大学幼児教育学科、平成27年度「保育内容総論」の取り組みについて

表1 A短大のシラバス

保育内容総論	1年・前期・必修	1単位 演習	関係資格：幼稚園教諭二種免許 保育士資格
【授業の到達目標】			
1. 保育所保育指針における「保育の目標」「保育の内容」「乳幼児期の子どもの発達過程」を保育内容と関連付けて理解するとともに保育の全体的な構造を理解する。 2. 保育の展開においては、子どもの最善の利益を考慮して行うことを基盤におき、養護と教育（五領域）が一体的に行なわれることを具体的な保育実践につなげて理解する。			
【授業の概要】			
保育者としての専門職である保育士と幼稚園教諭が子育て中の両親や家族への最善の協力として、必要である深い見識を身に付けるための基礎理論を基に具体的に「幼児期に何が必要か」をテキストや多くの関係資料を参考にしながら学習する。			
【授業計画】			
第1回：オリエンテーション 教育基本法・学校教育法から見える保育がめざす姿 第2回：保育の基本 保育とは何か 第3回：保育内容Ⅱについて 発達と保育内容、生活と保育内容、保育の方法 第4回：総論と各論の関係 意義と特質、保育についての学び方 第5回：環境による教育の背景 「環境」をとらえる基本的視点 第6回：乳幼児期にふさわしい生活 直接体験の必要性—学内自然環境とふれあう 第7回：総合的発達援助 遊びを通しての総合的な指導、援助の考え方 第8回：保育教材についてⅠ 物的環境と保育内容 第9回：保育教材についてⅡ 自然環境と保育内容 第10回：人的環境と保育 保育者、親、地域の人々と保育のつながり 第11回：五領域の成り立ち ねらいと内容 第12回：発達の特性と課題 一人一人の発達の特性と個々に即した援助 第13回：保育内容の展開Ⅰ 子どもの姿から活動を生み出す 第14回：保育内容の展開Ⅱ ねらい、内容、環境構成と配慮事項のつながり 第15回：指導案の作成 長期、短期、ディリープログラムの理解と作成			
【テキスト】			
神長美津子、杉本裕子、松山洋平「保育内容総論（あなたならどうしますか？）」（萌文書林）			
【参考書・参考資料等】			
月刊雑誌「保育ナビ」「保育の友」 など			
【成績評価の方法】			
レポート提出（70%）、課題（宿題）（30%）			

表1は、A短大の「保育内容総論」のシラバスである（*筆者が、A短大のホームページ上に記載があるシラバスを一部補足修正して作成、以下の表も同様）。平成27年度の「保育内容総論」の講義についてだが、講義担当者の専門は、健康教育学・保育学・家庭支援学であり、公立中学校での現場経験もある教員である。

先ず、開講の時期についてだが、1年の前期になっており、今回の保育士養成課程の改正内容に依拠し、先に全体的な「総論」を学習することになっていることが分かる。授業の到達目標については、保育所保育指針における、保育の全体的な内容・構造を理解することと、保育の展開において、養護と教育の一体化を具体的な保育実践につなげて理解すること、としている。

授業の概要については、専門職である保育士と幼稚園教諭にとって必要な、基礎理論を基に具体的に「幼児期に何が必要か」を学習する、としている。具体的な授業計画からは、保育内容の5領域の各領域に繋がる、保育内容全体の位置づけとしての「保育内容総論」の授業であることが分かる

また、実践的なテキストや参考書の使用や、筆記試験を行わず、レポートや課題提出を中心とした成績評価方法から、A短大では、「保育内容総論」を保育現場に即した形で、保育内容全体を分かりやすく、平易に指導しようとしていることが確認できる。

Ⅲ. B私立短期大学幼児教育学科の概要と平成27年度「保育指導法・総論Ⅰ」「保育指導法・総論Ⅱ」の取り組みについて

1. B私立短期大学幼児教育学科の概要

B私立短期大学幼児教育学科（以下、B短大と略記）は、大分県中部の都市に、昭和43年に設立された。入学定員は現在70人である。取得可能な資格は、保育士資格と幼稚園教諭二種免許が中心で、A短大と同様に、ほとんどの学生がこの2つの資格・免許を取って卒業する。これら以外に、レクリエーション・インストラクター資格や社会福祉主事任用資格も取得可能で、卒業生の就職先は、例年、保育所が約80%、幼稚園が約20%である。

B短大の建学の精神は、「自立・自活できる人材の育成」である。また、専門教育・実務能力の向上と同様に、人格教育についても重視している。そのため、豊かな人間性の具現化をめざし、教養教育にも力を入れていて、保育者として必要な実践的知識と技術の修得・向上はもちろん、社会人として必要な教養や感性を磨き、豊かな心で子どもや保護者を支援できる“保育のスペシャリスト”の養成を目指している。

2. B私立短期大学幼児教育学科、平成27年度「保育指導法・総論Ⅰ」「保育指導法・総論Ⅱ」の取り組みについて

表2-1は、B短大の「保育指導法・総論Ⅰ」のシラバスである。平成27年度の「保育内容総論」の講義についてだが、B短大では、「保育内容総論」に該当する科目が「保育指導法・総論Ⅰ」と「保育指導法・総論Ⅱ」の2つになる。講義担当者の専門は、文学・古典・郷土史であり、保育や幼児教育関係の教員ではない。

先ず開講の時期についてだが、2年の前期になっており、この後に示す2年の後期科目である「保育指導法・総論Ⅱ」と併せて、B短大では、「保育内容総論」に該当する科目は、実質、2年の通年科目であることがわかる。

授業の到達目標については、保育内容の中心である5領域を総合的に把握し、主に保育原理で学習した、特に実践の部分に身に付けることになっている。

授業の概要については、領域別の科目の学習とともに、それらを総合的にとらえる視点に立って、保育の全体構造を理解することができるよう、とあり、具体的な授業計画からは、保育内容全体に関するもので、特に実践に関わる部分を幅広く学んでいく授業であることが分かる

また、テキストに、漢字の学習法に関するものを使用していることから、担当者の専門であり、かつ学生に基礎学力を身に付けさせることを意識しているのだろう。成績評価の方法は、筆記試験を中心にレポートも出すことから、オーソドックス形式であることが分かる。

表2-1 B短大のシラバス（前期）

保育指導法・総論Ⅰ	2年・前期・必修	1単位 演習	関係資格：幼稚園教諭二種免許 保育士資格
【授業の到達目標】			
5領域を総合的に把握し、幼児生活の形態や生活の流れのとらえ方、保育法や保育指導法立案、保育者の役割、保育課程の実際など保育学の全体像を学び、保育現場で実践する態度を身につける。			
【授業の概要】			
領域別の科目の学習とともに、それらを総合的にとらえる視点に立って、保育の全体構造を理解することができるよう、講義とともに実践やレポート提出等を交えて実施する。			
【授業計画】			
第1回：「総論」で捉える保育			
第2回：子どもの発達と生活			
第3回：保育内容の変遷			
第4回：保育の特質			
第5回：保育内容と保育の計画・展開1			
第6回：保育内容と保育の計画・展開2			
第7回：保育内容と保育の計画・展開3			
第8回：保育内容と保育の計画・展開4			
第9回：保育の評価と記録1			
第10回：保育の評価と記録2			
第11回：保育者論			
第12回：現在の保育の課題			
第13回：新しい保育需要			
第14回：保育所保育指針から学ぶ			
第15回：まとめ			

【テキスト】 「保育内容総論」北大路書房、「漢字学習法」受験研究社
【参考書・参考資料等】 特になし
【成績評価の方法】 評価テスト60% レポート20% 出席・取り組み態度20%

これに対して、表2-2は、「保育指導法・総論Ⅱ」で、「保育指導法・総論Ⅱ」と同じ担当者が、引き続き後期に行う科目である。また、また、テキストの使用や、成績評価の方法についても、「保育指導法・総論Ⅰ」と同じである。

表2-2 B短大のシラバス（後期）

保育指導法・総論Ⅱ	2年・後期・必修	1単位 演習	関係資格：幼稚園教諭二種免許 保育士資格
【授業の到達目標】 「保育指導法・総論Ⅰ」を受け、さらに具体的に保育現場で要求される実践的態度の育成を目指す。			
【授業の概要】 保育の全体構造を理解しつつ、実際の保育活動に求められる態度・資質の育成を目指し、講義を中心に実践形式を取り入れ実施する。			
【授業計画】 第1回：保育所と幼稚園 第2回：養護と教育 第3回：受容と共感 第4回：子どもの発達 第5回：幼稚園教育要領の基本 第6回：保育所保育指針の基本 第7回：保育課程と指導計画1 第8回：保育課程と指導計画2 第9回：保育課程と指導計画3 第10回：保育課程と指導計画4 第11回：保幼小の連携 第12回：保護者との関係 第13回：地域社会との連携 第14回：子どもの人権・生きる力 第15回：まとめ			
【テキスト】 「保育内容総論」北大路書房、「漢字学習法」受験研究社			

<p>【参考書・参考資料等】 特になし</p>
<p>【成績評価の方法】 評価テスト60% レポート20% 出席・取り組み態度20%</p>

授業の到達目標については、「保育指導法・総論Ⅰ」を受け、さらに具体的に保育現場で要求される実践的態度の育成を目指す、とあり、より実践的で、保育所実習・幼稚園実を意識していると思われる。

授業の概要については、保育の全体構造を理解しつつ、実際の保育活動に求められる態度・資質の育成を目指し、講義を中心に実践形式を取り入れ実施する、とあり、具体的な授業計画からは、保育所実習・幼稚園実習において、実習生が行う責任実習の指導計画案作成が中心になっていることが分かる。

指導計画案の作成については、実習直前もしくは、実習を挟んで開講される場合が多い、保育所実習指導や幼稚園実習指導の科目で指導される場合と、保育課程論もしくは、幼児教育課程論のようなカリキュラムに関する指導を行う科目で扱う場合と、このB短大の事例のように、「保育内容総論」的な科目の中で、指導される場合に大別される。どの科目で、指導計画案の作成が扱われるかは、各保育者養成校の実習時期、該当科目の開講科目時期、科目担当者の専門領域に左右されると思われるが、このB短大の事例のように、半期ずつの通年科目として、同じ担当者が一貫して指導を行うことは、ある程度の効果が期待できるとと思われる。

Ⅳ. C私立大学短期大学部初等教育科・保育科の概要と平成27年度「保育内容総論」の取り組みについて

1. C私立大学短期大学部初等教育科・保育科の概要

C私立大学短期大学部初等教育科・保育科（以下、C短大と略記）は、大分県中部の都市に、それぞれ昭和37年、平成16年に設立された。入学定員は現在、初等教育科150人、保育科60人である³⁾。初等教育科は、小学校・幼稚園コースと保育・幼稚園コースに分かれ、保育科は、そのカリキュラムにおいて、初等教育科の保育・幼稚園コースと多くの部分で重複する。取得可能な資格は、初等教育科は、小学校教諭二種免許・幼稚園教諭二種免許・保育士資格が中心で、保育科は、保育士資格と幼稚園教諭二種免許が中心である。これら以外に、C短大では、司書、司書教諭、レクリエーション・インストラクター資格、社会福祉主事任用資格も取得可能である。卒業生の就職先は、例年、C短大全体で、保育所が約55%、幼稚園が約20%、施設が約15%で、この他に進学・一般企業が約10%である。C短大の建学の精神は、「真理はわれらを自由にする」である。目標とする人間像は、「真理を探究し自由を愛する姿勢を持ち、高い専門能力と広い教養を身につけ、豊かな人間愛・地域愛を備え、進んで社会に貢献しようとする人間」で、この人間像を目指して教育目標を明確に掲げ、学生の学びの視点に立って、温かな人間関係をベースに、一人一人

を大切に丁寧な指導を行っている。

2. C私立大学短期大学部初等教育科・保育科、平成27年度「保育内容総論」の取り組みについて

表3-1は、C短大初等教育科の「保育内容総論」のシラバスである。開講の時期は、2年の前期で、1年次に保育原理と保育内容の各論を学んでからの履修で、この流れはC短大の保育科も同じである。平成27年度の「保育内容総論」の講義についてだが、C短大の初等教育科の講義担当者は、現場の幼稚園教諭経験者で、地元の教育委員会勤務経験者でもある。

授業の到達目標については、保育内容を実践に即して総合的にとらえる視点がもてるようになることを目的とする、とあり、夏休み以降の保育所実習と幼稚園実習を意識した、実践に即した目的であることが分かる。

授業の概要については、保育内容の5領域を、実際の保育において、遊びや生活に丸ごと含まれている事を理解する、とあり、具体的な授業計画からは、園生活をイメージし、保育所・幼稚園での保育内容を保育所保育指針・幼稚園教育要領、子どもの発達、指導計画などを通して学ぶ内容になっている。

表3-1 C短大・初等教育科のシラバス

保育内容総論	2年・前期・必修	1単位 演習	関係資格：幼稚園教諭二種免許 保育士資格
【授業の到達目標】 保育内容を実践に即して総合的にとらえる視点がもてるようになることを目的とする。			
【授業の概要】 保育内容は5つの領域で示されているほか、養護的な内容もある。実際の保育では、これらの内容が、遊びや生活に丸ごと含まれている事を理解する。			
【授業計画】 第1回：園生活をイメージし、保育所・幼稚園の一日を知る 幼稚園・保育所にかかわる制度を知る 第2回：子どもになって保育内容を理解する 遊びを通しての経験を語り合う 第3回：実際の子どもの姿から学んでみよう 附属幼稚園での活動を通して子どもとかかわる 第4回：子どものエピソードから学ぼう 領域について学ぶ 第5回：遊びや生活を通して学ぶ 遊びの中で学ぶということ 第6回：遊びと生活との関係 学びとは何かを考える 第7回：保育所保育指針と幼稚園教育要領における保育内容のとらえ方 改訂された保育所保育指針における保育内容のとらえ方のポイント 第8回：保育所保育指針と幼稚園教育要領における保育内容のとらえ方 改訂された幼稚園教育要領における保育内容のとらえ方のポイント 第9回：領域と保育内容について学ぶ 領域って何だろう—総合的であることのそれぞれについて学ぶ			

第10回：年齢と保育内容 0歳～2歳児 第11回：年齢と保育内容 3歳～5歳児 第12回：子育て支援と保育内容 保育内容を深める遊びや文化財 第13回：保育における指導計画の種類と役割 第14回：保育における計画の必要性（活動案作成） 第15回：教科のまとめ 子育て支援センターでの実践
【テキスト】 「保育内容総論」ミネルヴァ書房、「幼稚園教育要領解説」文部科学省、幼稚園教育指導第3集「幼児理解と評価」文部科学省、「保育所保育指針」厚生労働省
【参考書・参考資料等】 「保育方法・指導法」ミネルヴァ書房
【成績評価の方法】 筆記試験（50%）、レポート（30%）、授業への取り組み姿勢（20%）

テキストは、「保育内容総論」の教科書以外に、幼稚園教育要領の解説書と保育所保育指針などを指定していて、保育内容の基本的なことを学ばせる異図が分かる。成績評価の方法は、筆記試験を中心にレポートと授業中の取り組み評価する、比較的オーソドックス形式であることが分かる。

表3-2 C短大・保育科のシラバス

保育内容総論	2年・前期・必修 (オムニバス形式)	1単位 演習	関係資格：幼稚園教諭二種免許 保育士資格
【授業の到達目標】 保育の目標である人間形成の基盤を培うために、必要とされる乳幼児生活の「保育内容」を理解することができるようになる。（*授業の形態は、A（教員名）とB（教員名）のオムニバス形式となります。			
【授業の概要】 本科目は、1年次の保育内容の諸科目を受けて行うものである。先ず「保育内容」の全体像を説明し、その後、現場における、具体的な「保育内容」についての状況や問題点を講義、グループディスカッションなどを通して検討する。			
【授業計画】 第1回：「保育内容」とは何か（A・B） 第2回：子どもの活動を考える1 「事例：ラーメン屋さんごっこ」を使って、子どもの遊び場面をもとに活動の捉え方について考える（B） 第3回：子どもの活動を考える2 「事例：ラーメン屋さんごっこ」を使って、子どもの遊び場面をもとに保育者のかかわりについて考える（B） 第4回：子どもの活動と環境について考える1 「事例：レストランごっこ・ビーズ通し・自動車作り」を使って、異年齢集団の活動と環境構成との関係について考える（B）			

<p>第5回：子どもの活動と環境について考える2 「事例：レストランごっこ・ビーズ通し・自動車作り」を使って、子どもの遊びやクラス編成毎の理想の保育室を構成する（B）</p> <p>第6回：保育計画と保育者関係1 「事例：困ったときの園長頼み」を使って、担任の行う保育と園生活の流れの中に潜む壁について考える（B）</p> <p>第7回：保育計画と保育者関係2 「事例：中村先生のイライラ」を使って、日常保育の振り返りと他の保育者との関係について考える（B）</p> <p>第8回：園生活と家庭生活との関係 「事例：首のながーいキリン」を使って、園生活と家庭生活との関係について考える（B）</p> <p>第9回：園生活と行事1 「事例：別々の入園式」を使って、実際に行われている入園式の在り方をもとに行事と保育目標との関係について考える（A）</p> <p>第10回：園生活と行事2 「事例：発表会」を使って、幼稚園や保育所における1年間の行事を挙げ、行事の意味と行事を生かした保育について考える（A）</p> <p>第11回：園生活と行事3 「事例：発表会」を使って、発表会と日常保育との関連について考える（A）</p> <p>第12回：子どもの姿と思い1 「事例：ともちゃんとゆうくん」を使って、子どもたちの日常の姿からその思いを探る（A）</p> <p>第13回：子どもの姿と思い2 「事例：ともちゃんとゆうくん」を使って、子どもたちの日常の姿からその思いを探る（A）</p> <p>第14回：子どもの捉え方 「事例：田中先生のスランプ」を使って、保育を進める言葉について考える。「事例：花子ちゃんと太郎くんのケンカ」を使って、子どもの思いを表す方法について考える（A）</p> <p>第15回：保育の環境 「事例：中村先生の保育記録」を使って、保育を展開する環境の捉え方について学ぶ（A）</p>
<p>【テキスト】 「事例とDYIで展開する保育実践 Ver.2」 新野智子・小林小夜子・相浦雅子（北大路書房）</p>
<p>【参考書・参考資料等】 『幼稚園教育要領〈平成20年告示〉』文部科学省、『保育所保育指針〈平成20年告示〉』厚生労働省、『幼稚園教育要領解説』文部科学省、『保育所保育指針解説書』厚生労働省 190円＋税</p>
<p>【成績評価の方法】 筆記試験（35%）、レポート（45%）、授業への取り組み姿勢（20%）</p>

表3-2は、C短大保育科の「保育内容総論」のシラバスである。開講の時期は、先に指摘した通り、2年の前期で、初等教育科と同様に、1年次に保育原理と保育内容の各論を学んでからの履修であることが分かる。C短大保育科の「保育内容総論」の講義はオムニバス形式で、講義担当者は2名で、その内訳は、現場の実践者目線の担当者と教育学研究者の担当者である。

授業の到達目標については、保育の目標である人間形成の基盤を培うために、必要とされる乳幼児生活の「保育内容」を理解することができるようになる、とあり、初等教育科と同様に、保育内容を実践の場で理解させるべく、今後の保育所実習と幼稚園実習を意識した目的であることが分かる。

授業の概要については、先ず「保育内容」の全体像を説明し、その後、現場における、具体的な「保育内容」についての状況や問題点を講義、グループディスカッションなどを通して検討する、とあり、具体的な授業計画からは、現場でのより具体的かつ詳細な事例を、環境、保育計画、行事、子どもの姿（活動）、といった視点から検討する内容になっていることが分かる、なお、2人の教員は、前半部と後半部にほぼ分かれての担当になっている。これらのことから、保育科の「保育内容総論」の内容は、初等教育科以上に、より実践的な内容であることが確認できた。

また、テキストも実践事例を集めたものを使用していて、参考書も幼稚園教育要領と保育所保育指針と、それぞれの解説書を用いており、徹底的に現場や実習を意識していることが分かる。成績評価の方法は、初等教育科と同じ形式ではあるが、割合として筆記試験より、レポートと授業中の取り組みを重視していることが特徴的であるといえる。

IV. まとめと今後の課題

大分県内の保育者養成校3校（A短大、B短大、C短大）の「保育内容総論」の指導法について、具体的なシラバスや授業内容・方法などを比較検討した結果、主に以下の3点が明らかになった。

1. 「保育内容総論」の開講時期が、1年次か2年次か、半期か通年科によって、授業概要や計画が左右される。
2. 保育士養成課程の改正による指摘として、「保育内容総論」で全体像を理解して、各領域を学ぶという流れは、保育者養成校では必ずしも守られていない。
3. 大分県内の保育者養成校に限るならば、「保育内容総論」については、各校で微妙な違いはあるが、方向性としては、実践的な内容・指導を目指している。

今後の課題として、より多くの養成校の「保育内容総論」の指導法について、具体的なシラバスや授業内容・方法などを比較検討する必要があるだろう。また各出版社から出された「保育内容総論」のテキスト⁴⁾の内容自体も検討する必要があるだろう。

註

- 1) 保育士養成課程等検討会 平成22年3月24日「保育士養成課程等の改正について（中間まとめ）」。
- 2) 「保育内容総論」という講義科目の名称自体は、多くの保育者養成校においては、これまでも存在していた。
- 3) 保育科は、今年度の入学生で廃止となり、来年度から初等教育科（定員200人）に統合されることになった。
- 4) 保育内容総論のテキスト自体、保育の歴史や現代保育の課題まで包括的に扱っているものと、現場に即した、保育内容を深く扱っているものがある（川俣他 2015,221頁）。

引用・参考文献

別府大学・別府大学短期大学部 2016

<http://www.beppu-u.ac.jp/>

別府溝部学園短期大学 2016

<http://www.mizobe.ac.jp/>

福元真由美・中野圭祐 2012, 「大学4年間の総合的実習プログラムの開発－「保育内容総論」の授業開発に関する中間報告」『東京学芸大学附属学校 研究紀要』第39集 61－70頁。

学校法人扇城学園東九州短期大学 2016

<http://www.higashikyusyu.ac.jp/>

川俣沙織・川俣美砂子・永渕美香子・圓入智仁・増田隆・那須信樹 2015, 「「保育内容総論」運営上の課題に関する研究」『中村学園大学・中村学園大学短期大学部研究紀要』第47号 217－222頁。

源証香・小谷宣路 2014, 「「保育内容」研究のあり方に関する一考察－保育者養成校における担当教員の専門分野の実態調査から－」『埼玉大学教育学部附属教育実践総合センター紀要』Vol.13. 9－15頁。

清水桂子 2015, 「保育者養成における遊びの実際から理解へ導く「保育内容総論」の授業の展開と一考察」『北翔大学短期大学部研究紀要』第53号 71－78頁。

徳本達夫 2015, 「保育内容総論授業の現状と課題」『人間福祉研究』第13号 広島文教女子大学人間福祉学会編 83－92頁。